物流ニッポン　2026年11月3日付2面

DNA

理事長ら拓殖大で講演

物流業界の現状・課題

ドライバー・ニューディール・アソシエーション（DNA、江川哲生理事長）は10月28日、拓殖大学商学部の角田光弘教授の授業「経営戦略論B」で講演した。江川理事長らが登壇し、学生に向けて物流の実情などを講義した。

ワンロジ（吉岡泰一郎社長、東京都新宿区）の白石絵梨副社長が、物流業界の現状や課題を説明した。

また、南日本運輸倉庫（中野区）の大園圭一郎社長、ライフサポート・エガワ（足立区）社長の江川氏、山岸運送グループ（山岸一弥社長、静岡県島田市）の山岸龍大常務が討論。モデレーターをワンロジの吉岡社長が務めた。時間外労働の上限規制適用から2年たった現状を話すとともに「物流業界を選んだきっかけ」「人手不足への対応」といった学生からの質問に回答した。



パネル討論を行う（左から）南日本運輸倉庫の大園社長、ワンロジの吉岡社長、山岸運送グループの山岸常務、江川理事長

江川氏は「最近はメーカーや卸を巻き込んで会話できるようになった」と強調。また「ドライバーはこれまで雑に扱われていたが、荷主に『物流がないと荷物を持って来てもらえない』と改めて気付いてもらえた」と話した。

山岸氏は「（2030年には）ドライバー不足より、整備士不足が深刻化するのではないか。このため、静岡でトラックの整備のインフラづくりに向けて準備を進めている」と説明。人材の募集に関して、大園氏は「待遇改善を進めることで、応募は増えるだろう。われわれにはやるべきことがいっぱいある」と言及した。

江川氏は「いろんな人が働ける環境を整えているが、今後間違いなく輸送力は減る。そうなれば、運賃をきちんと頂けるメーカーを選ぶようになるだろう」とも訴えた。

講演の意図について、角田氏は「身近な企業だとイメージしやすいが、BtoB（企業間）だと難しい。物流の大半を占めるBtoBの運送会社を知ってもらうことで、視野を広げてほしい」とコメントした。

（加藤紀之介）